

# シガテラのファクトシートを 紹介します。

食品安全委員会では、主に熱帯や亜熱帯の魚によって起こっている食中毒であるシガテラについて、ファクトシートを作成・公表しています。その概要をご紹介します。

## シガテラの原因となった魚の例

### シガテラとは？

シガテラとは、渦鞭毛藻<sup>\*</sup>（うずべんもうそう）と呼ばれる微細藻が産生する、シガトキシンやその類縁化合物（以下シガテラ毒）が蓄積した魚類によって起こる食中毒のことです。海藻に付着した渦鞭毛藻を藻食動物が食べ、さらにその藻食動物を魚類が食べるという食物連鎖によってシガテラ毒が魚類に蓄積します。そして、人がその魚類を食べることによってシガテラが発生します。

シガテラの原因となった魚類としては、オニカマス<sup>\*</sup>などのカマス科カマス属、アカマダラハタなどハタ科マハタ属、バラハタなどのバラハタ属、オオアオノメアラなどのスジアラ属、バラフエダイ、イッテンフエダイなどフエダイ科フエダイ属など、主に熱帯や亜熱帯に生息する魚が知られています。

魚の外見から毒性を判断することは難しく、またシガテラ毒は熱に強いいため、加熱調理しても無毒化することはできません。そのため、シガテラを予防するには、シガテラの原因と考えられる魚類を食べないことが重要です。

### 人への影響は？

中毒症状には、下痢や吐き気、腹痛などの消化器系症状、徐脈<sup>\*</sup>、血圧低下などの循環器系症状、手足や口の周りの感覚異常（冷たいものに触れると、ドライアイスに触った時や電気ショックのように感じる「ドライアイスセンサーン」）、かゆみ、しびれな



イッテンフエダイ



バラハタ



バラフエダイ

写真提供 / 独立行政法人 水産総合研究センター

どの神経系症状があります。

死亡率は低く、日本国内で死亡例の報告はありませんが、回復は一般的に遅く、重症になると神経系の症状が1年以上続くこともあります。現在のところ、治療法は対症療法しかありません。

### 国内や海外の状況は？

日本では、1989年から2010年までに78件のシガテラの届出がありました。原因魚はバラハタが16件と最も多く、次いでイッテンフエダイ12件、バラフエダイ11件でした。また、他の地域と比べて圧倒的に沖縄県の発生件数が多いのですが、近年は、本州でもイシガキダイを原因魚として発生しています。厚生労働省は、オニカマスの販売を禁止し、さらに、シガテラの原因となる可能性が高いと指定した魚類の輸入を規制しています。

海外では、南太平洋の島しょ国で多くのシガテラが発生していますが、報告されているのはごく一部と考えられています。米国やオーストラリアや欧州連合（EU）などはガイドラインをもうけ、シガテラの発生を防止するためのリスク管理を行っています。

## 用語 CHECK

### ●渦鞭毛藻（うずべんもうそう）

水中でプランクトン生活をする単細胞の藻類の1種。シガトキシンを産生する渦鞭毛藻には、*Gambierdiscus toxicus* などがある。

### ●オニカマス

1953年より、人に健康被害をもたらす有毒魚として食用は禁止されている。シガテラ毒をもつため、ドクカマスとも呼ばれる。

### ●徐脈

脈が遅くなること。

詳しくはこちらもご覧ください。



食品安全委員会ホーム > FSC Views > ファクトシート（科学的知見に基づく概要書） > シガテラ [PDF]

[http://www.fsc.go.jp/sonota/factsheets/factsheets\\_ciguatera\\_131216.pdf](http://www.fsc.go.jp/sonota/factsheets/factsheets_ciguatera_131216.pdf)